



やさしく  
かしこく  
たくましく

学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

## 師走・春待月・暮来月・親子月・限月

黄色く染まっていた校舎裏の銀杏の木もすっかり葉を落とし、本格的な冬の到来に向けての支度が整えられているようです。

今年も残り僅かとなりましたが、この12月という月、「師走」という呼び方以外にも「春待月」や「暮来月（くれこげつ）」「親子月」「限月（かぎりのつき）」など様々な呼び方がある事は知られています。

とかく年末の慌ただしさや1年の最後の月という印象が強いこの12月を「春待月」と呼んだ人たちには、きっと心の余裕があったのでしょね。

私たちも、実り多き2学期を振り返るまとめの時期として、多忙な中にも心にゆたかりと余裕を持って学期末、残り数日の指導にあたりたいと思います。



## 即ち除日に講を起す

さて、まもなく年の暮れです。年度の途中ではありますが、一つの区切りとして、子ども達もそして私達も、きっと、この一年間を反省し「新年から新しい気持ちで頑張るぞ」という思いを持ったりするのではないのでしょうか。

ここで『**即ち除日に講を起す**』というお話をしたいと思います。

これは江戸時代の有名な儒学者 林羅山（はやし らざん）の言葉だそうで、除日（じょじつ）とは『大晦日』、講（こう）を起すとは『何かをやろうと決心すること』です。

江戸時代の優れた学者である林羅山のところに、大晦日、一人の少年が「来年から、ぜひ学問を教えてください。」とお願いに行きました。すると、羅山は少年に「お前が勉強したい気持ちはよく分かった。それほど勉強したいのに、なぜ来年から始めるのか。学問には、区切りはない。早速 今日、今すぐはじめよう。」

儒学者 林 羅山



そう言って、大晦日のその日から講義、つまり勉強を始めたのだそうです。

今年を振り返り、そして、明日から、新年から、3学期こそと考えることは大切です。

しかし、明日から、新年から、3学期から・・・と考え、それまでの間やらない人は、大したことはできない。**本気でやる気があるなら、今日、今すぐにはじめなさい、ということ。**

このことが、「即ち除日に講を起す。」の表す意味です。

この2学期末、子ども達には、まずはしっかりと自分の2学期はどうだったのか。何ができたのか、何が良かったからか。何ができなかったのか、それはなぜか・・・を振り返らせ、そして私達教師自身も、更には田平東小学校としても、しっかりと教育活動の振り返りを行いたいと思います。その際、その振り返りや反省は、次への課題と改善点を見つけ、対策を講じ、すぐ実践するためのものでなければなりません。

そして、次には「即ち除日に講を起す。」

年明け、新年から、3学期からと言わず、ぜひ今から、今すぐその時から始め、自分を伸ばす子ども達であってほしいと思いますし、その子達の為に、この東小学校も力を尽くして頑張ります。